

## 上物収量の多い水ナス優良系統「No. 1-1-3」の育成

### [研究のねらい]

本県では、紀の川市を中心に水ナスが栽培されていますが、個々の農家が独自に採種を行うことが多く、農家間で果実品質にばらつきがあり、秀品率が低いことが問題となっています。そこで、収量が多く、上物率と漬物適性の高い水ナスの優良系統の育成を行います。

### [研究の成果]

- ①育成経過：1997～2002年に和歌山県内および大阪府泉南地域で栽培または市販されている6系統から個体選抜を繰り返し、「No. 1-1-3」を育成しました（図1、写真1）。
- ②果実特性：「No. 1」の親系統の果形および果実比重は、泉州系統や「紫水」（タキイ種苗）とほぼ同じで、「みず茄」（タキイ種苗）と比べて果実長が短く、横径が大きく、果実比重は大きくなります（表1）。
- ③収量特性：「No. 1-1-3」は県内農家栽培系統や泉州系統と比較して上物収量が多く、上物率が高くなります（図2）。
- ④漬物適性：漬物業者、生産農家等をパネラーとし、「No. 1-1-3」と漬物適性が高いとされる泉州系統について、漬物加工後の食味に関する比較試験を行った結果、評価は同等でした。

### [成果の活用面・留意点]

- ①No. 1-1-3は3月～4月定植の半促成栽培に適します。
- ②今後、現地栽培での適応性の確認が必要です。

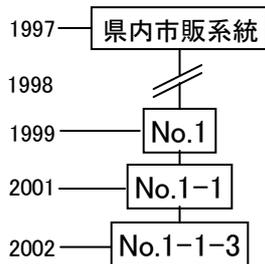


図1 水ナス系統 No. 1-1-3 の選抜過程  
注) □は供試系統、西暦は系統を最初に供試した年



写真1 水ナス系統「No.1-1-3」の果実

表1 水ナスの果実形質の系統・品種間差異（1998）

系統	果実長 (cm)	横径 (cm)	横径/ 果実長	果実 比重
*No. 1 親系統	11.5	6.5	0.57	0.70
泉州系統	11.4	6.9	0.61	0.71
紫水（タキイ）	10.9	6.8	0.62	0.71
みず茄（タキイ）	13.7	5.6	0.41	0.63

注) \*No. 1 親系統の果実形質は、No. 1-1-3 のものとほぼ同じ

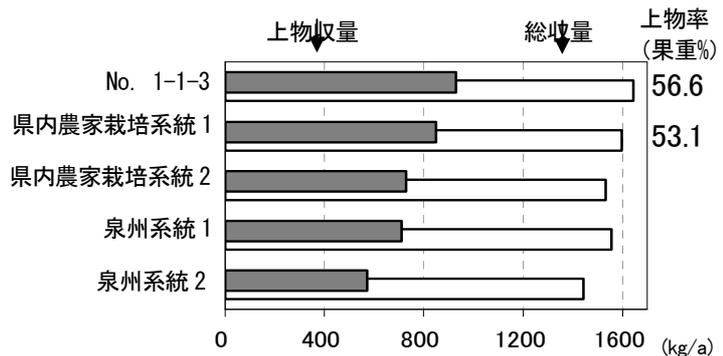


図2 水ナスの収量および上物率の系統間差異

注) 播種：2002年11月22日、接木：2003年1月22日、定植：3月14日、台木品種：トナシム、収穫：4月20日～10月30日、栽植密度：うね幅210cm、株間60cm、79株/a、整枝法：主枝3本仕立、切戻し剪定

実施年度：平成9～16年

担当者：藤岡唯志・衛藤夏葉